第63回沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会

去る、5月8日から9日の2日間、「第63回沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会」が、JTAドーム宮古島で行われました。

この定期総会は、毎年、国頭郡・中頭郡・那覇・島尻郡・離島地区（宮古・八重山）の５地区において持ち回りで開催され、今年は離島地区開催となり、宮古島市が会場となりました。（※宮古と八重山は交互に開催しています）

この会の目的としては、県内市町村教育委員会の相互の連携を図るとともに、教育行政に関する諸問題を研究討議するものとし、今大会には県内から総勢200名あまりの教育行政関係者が参加しました。

1日目の8日には総会と研修会、情報交換会が行われ、総会では平成29年度の事業報告や決算、監査報告などが行われ、その他、平成30年度の役員選出や事業計画、予算などの承認がなされました。

研修会では「子どもたちをネット社会の被害者にも加害者にもさせないために」をテーマに講師としてｅ－ネットキャラバンの川満　隆さん、嶺間　恵誠さんによる講演会が行われ、近年増加している問題について、参加者は熱心に話を聞き入っていました。

情報交換会では、各々自治体の参加者でざっくばらんに情報を共有し合いつつ、平良中学校吹奏楽部の演奏に耳を傾け、比嘉民俗芸能保存会の「比嘉の獅子舞」、アイラナフラスタジオの皆さんによるフラダンス、上野婦人会による舞踊、宮古民謡協会による民謡ショーも更に会場を盛り上げていただきました。

2日目は分科会が行われ、「貧困対策の推進について」「教職員の業務改善に向けた対策について」「地域に愛着を持つ子どもを育成するための学校と地域社会との連携について」の３つのテーマを６グループに分かれ、各自治体の現状や課題などを討議しました。

３時間にわたり各グループとも出された意見、問題点について活発に議論し、今後の教育行政についての方向性を見出そうとしていました。

次回は国頭郡の東村開催となっております。

結の橋学園校舎建設状況

伊良部地区の４つの小・中学校を統合し、義務教育９年間（小学校６年間・中学校３年間）一貫した教育を行う小中一貫校「伊良部島小・中学校（愛称：結の橋学園）」が平成３１年４月に開校します。

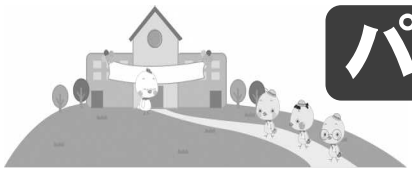
現在、小学生と中学生が共に学び、小中一貫した教育を効果的に行うことができる施設一体型校舎と体育館の建設が佐良浜中学校グラウンドで着々と進められており、現在の進捗率は１５％を超えました。

また、結の橋学園の運動場やプールについては、新しい校舎や体育館の完成後、これまでの佐良浜中学校の校舎と体育館を解体し、平成３２年度に整備される予定です。

結の橋学園では、小中一貫教育の特色を活かした学校の施設整備を進め、９年間の学びがつながり、子ども達の夢を育む学校づくりを行います。

平成30年4月18日撮影

平成30年5月16日撮影



パニパニ☆スクール

市内小中学校で児童生徒が元気に取り組んでいるユニークな活動や取り組みを紹介するコーナーです。

今回は、北中学校が取り組んでいる活動をご紹介します。

北中プライド意気揚々！立て看板でやるき満々！！

北中学校校門前の道路にズラリと並んだ、カラフルな手書き文字の立て看板。看板には、スポーツや文化、学業面で活躍した生徒の名前や学校行事のお知らせ、各種大会に向けての激励のことばや結果など、主に生徒の活躍や学校に関することが書かれています。しかし、よく見ると、空手の大会で優勝した北小の児童やバレエコンクールに出場する東小の児童、大相撲で活躍する北中の卒業生、そして防犯功労により表彰された地域の方々の名前など、学校だけでなく北学区に関する事もこの看板には書かれています。おかげで、北学区界隈では、ちょっとした話題のスポットになっているようです。

ところで、この看板に名前が載った生徒の反応はというと、テニスの大会で優勝したある生徒は「（看板に書かれた自分の名前を見たときは）イェーイって思った。同時に次も絶対優勝してやるぞって気持ちになった」また、ハンドボールの大会で敢闘賞をもらった生徒は「少し恥ずかしかったけど、後からうれしくなってきた」などと言った声が聞かれた。

どうやら、看板に自分の名前が載った事で今後のモチベーションアップに繋がっているようである。

また、あるときは、表彰された事で看板に名前が載った地域の方が、うれしさのあまり学校にお礼を伝えたこともありました。正に、看板様々である。

ちなみに、看板は、毎日、校長（友利直喜）先生が一つ一つ丁寧に書いています。また、使われている紙は、全て不要になったポスター等の裏側を利用しています。もし、職場やご家庭に不要になったポスター・カレンダー等があれば、是非、北中学校まで届けて下さい。

不要になった紙が、今後、学校のそして地域の情報発信源として新たに生まれ変わることになります。

よろしくお願いします。

北中校門前に整然と並ぶ立て看板！是非見に来てください。

玄関ピロティで、まずは生徒に周知します。

連載 文化財を巡る

『戦争遺跡分布調査城辺 上野地区 ～西花切の壕群 新里の機関銃壕軍』

No.32

宮古島市教育委員会の文化財係では、平成二十九年度より三か年計画で宮古島市内の戦争遺跡の分布調査を実施しております。初年度となる平成二十九年度は、城辺地区と上野地区を対象として調査を行い、平成三十年三月にその成果をまとめた報告書を刊行しました。

宮古島市内の戦争遺跡については、平成十五年から十六年にかけて沖縄県立埋蔵文化財センターが分布調査を実施しており、六十二遺跡（平良十六、下地四、上野十一、城辺二十六、伊良部五）を報告しております。しかし、近年ではほ場整備工事などに伴い新規に発見される戦争遺跡が増加しており、より詳細な戦争遺跡の分布調査が求められていました。

平成二十九年度に実施した分布調査では、城辺地区で新規に発見された戦争遺跡が三十九遺跡、すでに知られていた戦争遺跡でも新たに壕が確認された遺跡が二遺跡あり総数六十四の戦争遺跡を確認いたしました。上野地区では、新規に発見された戦争遺跡が八遺跡、追加で確認された戦争遺跡が一遺跡あり、総数十九遺跡を確認しました。

今回は、新規に発見された壕の中から「西花切の壕群」と「新里の機関銃壕群」を紹介いたします。

西花切の壕は、花切集落の西方の丘陵に構築された壕群で全体で六つの壕で構成されています。六つの壕の内、壕三は、四つの壕口が連結する大規模な壕で戦時中に宮古島に配備された山砲兵第二十八連隊の第七中隊の本部壕であったことが特定されました。

新里の機関銃壕群は、すでに知られている戦争遺跡でしたが、今回の調査で新たに六つの壕（銃眼）が発見されました。この遺跡は、新里の海岸線沿いに構築された銃眼群で、上陸した敵を迎え撃つことを目的として構築されたものです。

このような海岸沿いに構築された銃眼は、市内でも複数確認されていますが、概ね一～二つほどの銃眼で構築されるのみで、新里の機関銃壕群のような複数の銃眼群がまとまって確認されたのは宮古島市内で初めての事例といえます。

平成三十年度は、下地地区、伊良部地区を対象に分布調査を行っています。壕などの戦争遺跡の他にも、空襲などの際に避難した洞窟や、旧日本軍が寄宿していた民家など、過去の戦争に関連する場所などについても情報がありましたら宮古島市教育委員会文化財係（七七－四九四七）までご連絡下さい。

※今回紹介した二つの戦争遺跡は、足場の悪い場所に構築されているため、現地見学などについてはご遠慮下さい。

西花切の壕群

新里の機関銃壕群

【第34回企画展】

「東松照明写真展　沖縄・宮古1972-1983　―46年前子どもだったあなたは、今どうしていますか―」

市総合博物館では、戦後日本を代表する写真家の一人、東松照明氏の写真展を開催いたします。東松氏が見たかつての宮古の姿をどうぞご覧ください。

東松照明（とうまつしょうめい）

1930年愛知県生まれ。「戦後写真の巨人」と称される写真家。1976年に発表された『太陽の鉛筆』には46年前に宮古島で過ごした7ヶ月間の生活を綴ったエッセイと、宮古島や周辺の島々を撮影した多くの作品が収められている。

期間：８月１０日（金）～９月１６日（日）

場所：市総合博物館　特別・企画展示室